

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	教育と人間 (Education and Humanity)	新座(Niiza)	
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	「ヒト」を「てつがく」する: 哲学的人間学入門		
担当者名 (Instructor)	佐古 仁志(SAKO SATOSHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMP2100	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

本講義の目的は、教育や哲学にかんする用語を覚えることではなく、自ら考え、意見を述べる力を養うこと、すなわち「てつがく」することにある。具体的には、①たんに「知識」を覚えるのではなく、そのような「知識」を疑う力を養い、他の人々に問題を提起することを通じて、「知識」を身につける。②「人間」というあたりまえの対象について基礎から考え直すことで、教育において大事な要素である自分で物事を考え、それをほかの人々に伝えることの大切さや困難さを実感する。

The purpose of this course is not for students to memorize terms related to education and philosophy, but for them to cultivate the ability to think and express their own opinions, that is, to “philosophize”. Specifically, students will 1) Acquire knowledge not only by remembering “knowledge” but by developing the ability to question such “knowledge” and to raise issues to other people. 2) By rethinking the basic subject of “humans” from the basics, students will realize the importance and difficulty of thinking about something yourself and communicating it to other people, which is an important element in education.

授業の内容 (Course Contents)

教育とは知識の一方的な伝達ではない。教育の場面では、教える側も教えることを通じていろいろなことを学ぶのであり、教えるものと教えられるもの間には循環的な関係が成り立っている。本講義では、そのような循環的な仕方での教育を身につけるために、「哲学的人間学」という方法を学び、「人間」というテーマを通じて実践する。

「人間」について考える時、多くの場合、言葉や社会の形成などの点で、ほかの「生き物」とは決定的に違うということが前提にされている。他方で、科学に従うならば、進化論的な意味での「ヒト」はほかの生き物たちと連続しているはずである。そこで本講義では、文系・理系という垣根を越えて、「ヒト」を「てつがく」することで、知らず知らずに前提してしまっていることを明らかにし、あらためて「人間」について考え直す。ここでは、ほかの「生き物」との違いだけでなく、「ロボット」のようなものとの違いについても考えることも重要となる。

授業の冒頭では、前回の授業のリアクションペーパーからよせられた問題をとりあげる。また、授業では専門的な内容や用語について簡単な説明を行なった上で、テキストに付属している問題を中心に参加者で議論を行なう。

Education is not a unilateral transfer of knowledge. In the educational setting, the teacher learns various things through teaching, and a cyclical relationship is established between the teacher and those who are taught. In this lecture, in order for students to acquire education in such a cyclical way, they will learn the method of “philosophical anthropology” and practice it through the theme of “humans.”

When thinking about “humans,” it is often assumed that they are decisively different from other “living creatures” in terms of language and social formation. On the other hand, according to science, “humans” in the evolutionary sense should be continuous with other living things. So, in this lecture, we will clarify what we have assumed without knowing by “philosophizing” about “humans” beyond the boundaries of humanities and science, and rethink “humans” again. It is important to think about the differences between “humans” and things like “robots” as well as the differences between “humans” and other “living things.”

At the beginning of each class, we will take up the issues identified from the previous class’ reaction papers. In addition, after giving a brief explanation of the specialized content and terms in the class, students will discuss focused on the problems attached to the textbook.

授業計画 (Course Schedule)

1. 授業の概要と導入
2. 人間学について
3. 人間学の基盤と方法
4. 人間観とミニマム人間学
5. まとめ1

6. 人格について
7. 子供と大人について
8. 性について
9. まとめ2
10. 人生について
11. 死について
12. まとめ3
13. 全体のまとめおよびフリーディスカッション
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テキスト(菅野盾樹『人間学とは何か』産業図書)の該当箇所を予習し、付属している問題のどれかについて自分の意見を述べる
ことができるようにしておくこと、あるいは関連する話題について問題を提起できるようにしておくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(60%)/出席+リアクションペーパーの内容(40%)
原則として4回以上の欠席は単位修得を認めない。

テキスト(Textbooks)

1. 菅野盾樹、1999、『人間学とは何か』、産業図書 (ISBN:9784782802076)

参考文献(Readings)

授業中に適宜指示する。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)